

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 看護マネジメント学分野	修了年度	平成 28 年度
氏名	香川 さゆり	指導教員 (主査)	小林 紀明 (土井 徹)

論文題目	<b>セカンドレベルを修了した看護管理者のコンピテンシーと 看護管理者教育の有用性</b>
------	---

本文概要

我が国における看護管理者教育は 1870 年ころより始まったといわれているが、その後、本格的に看護の継続教育の中に看護管理者の育成が位置付けられ、日本看護協会が 1992 年から認定看護管理者教育のファーストレベル（主任レベル）、セカンドレベル（師長レベル）、サードレベル（看護部長レベル）をスタートさせた。これは段階的に管理に必要な学習を積み重ねていき、最終的にトップマネジャーとして必要な知識・技術を修得できるように体系化されている。看護管理者に対する継続教育は看護の質の向上のために重要であり、本研究では「セカンドレベル」「看護管理者のコンピテンシー」に焦点をあてた。

まず、セカンドレベルを受講した中間管理者と、未受講の中間管理者のコンピテンシーを明らかにし、またコンピテンシー獲得の影響要因と管理実践におけるセカンドレベルの教育内容の活用との程度とコンピテンシーとの関連を明らかにした。

調査は関東地方の 300 床以上の病院に勤務する 350 名の中間管理者に対し、基本属性、コンピテンシー調査、セカンドレベル調査を実施した。その結果、セカンドレベルを受講している中間管理者は専門学校を卒業した 40 代で、平均 26 年の看護師経験と平均 7 年の看護師長経験を有していた。

“セカンドレベルを修了”した中間管理者は【達成重視】【イニシアチブ】【分析的思考】のコンピテンシーレベルが有意に高かった。また、中間管理者としてのコンピテンシーのうち、【対人関係理解】【顧客サービス重視】は、“看護歴”“師長歴”といった経験によって有意に獲得しており、【達成重視】【イニシアチブ】【情報探求】は、“セカンドレベル修了”“大学院修了”などの高等教育によって有意に獲得していた。しかし、コンピテンシー【指揮命令】は、唯一“属性”（看護歴、師長歴、学歴、管理者教育受講の有無など）による有意差を認めなかった。セカンドレベルのカリキュラムとの関連は、コンピテンシー【自己確信】は、セカンドレベルのカリキュラム 18 単元のすべての活用状況において有意差を認めなかったが、『看護組織管理論』『組織分析』『看護組織のナレッジマネジメント』が“現場の看護管理に活用できている”と回答した中間管理者は、16 コンピテンシーのうちの 5 割を獲得しており、その獲得状況が有意に高かった。